

## 神戸大学発達科学部創立10周年 記念シンポジウムのご案内

日本で初めて「発達科学」を学部の名称に用いた本学部は、2002年10月に創立10周年を迎えました。これまでも毎年「発達科学シンポジウム」を開催してきましたが、今年度は、創立10周年を記念して、3つのシンポジウムを企画しました。これまでにすでに2つのシンポジウムを開催してきましたので、ここにご案内するシンポジウムは、その最終第3部に当たります。

このシンポジウムでは、現在、日本を含めて世界の各国が共通に高い関心を寄せている「アクティブ・エイジング」を発達科学の課題として取り上げ、本学部でこの問題を手がけているさまざまな領域の研究者が自らの研究成果に基づいて学際的な観点から議論します。

中期や高齢期の生活や生き方に関心をお持ちの方の多数の参加をお待ちしております。

問い合わせ先

神戸大学発達科学部  
〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3丁目11  
電話 078(803)7891, 7895, 7902  
E-mail :oda@kobe-u.ac.jp



神戸市産業振興センター  
住所 神戸市中央区東川崎町1丁目  
(神戸ハーバーランド内)  
電話 078-360-3209

交通案内

JR「神戸駅」または神戸高速鉄道「高速神戸駅」下車。南へ徒歩5～8分。駐車場は周辺の有料駐車場をご利用ください。

## 神戸大学発達科学部創立10周年 記念シンポジウム

# サードエイジ と アクティブ・エイジング

少子高齢社会における中高年期の  
アクティブ・ライフスタイルを考える

開催日 2003年2月1日(土)  
開催時間 午後1時～5時  
場所 神戸市産業振興センター

入場無料



主催  
神戸大学発達科学部  
発達科学部人間科学研究センター  
サードエイジ研究会

「サードエイジ」(Third Age)という言葉は、日本ではまだまだあまり使われていませんが、欧米では、人の一生の第3段階目を指す用語として「中高年期」の代わりに広く使われています。そして、この段階にある人のことをサードエイジの段階にある人という意味で「サードエイジャー」(Thirdager)と呼んでいます。とくに何歳から何歳までということはありませんが、一般に40歳以降あるいは50歳以降の人たちのことをいいます。中年層や中高年、老人や高齢者という言葉に代わる新鮮で好ましい言葉として使われています。

深刻化する高齢化問題にいかに対応するか。世界のどの産業国もが抱える21世紀の大きな課題です。こうした中で、高齢期をいかに有意義に過ごすか、ということにますます高い関心が向けられるようになりました。その代表的な考え方や目標が「アクティブ・エイジング」で、2002年に開催された第2回国連世界高齢化会議の主要議題にもなりました。

外来語やカタカナ表現が多用されることを嫌ったり批判する人もいます。しかし、新しい外来語を無理矢理日本語にすることもどうかと思います。このシンポジウムでは、新しい言葉を積極的に使って、少子高齢社会における中高年期の新しい生き方について考えていきたいと思っています。

サードエイジ研究会は、サードエイジをめぐるいろいろな問題をさまざまな観点から自由に議論、研究しています。どなたでも参加できますので、関心のある方はご連絡下さい。

Tel・FAX 078-803-7891 email: oda@kobe-u.ac.jp

# プログラム

12時30分 開場

13時00分 開会

基調講演

## 少子高齢社会におけるサードエイジとアクティブ・エイジング

小田 利勝 (発達科学部人間科学研究センター教授 - 社会学・社会老年学)

シンポジウム

## サードエイジャーのアクティブ・ライフスタイルを考える

パネリスト

平川 和文 (発達科学部教授 - 運動処方論)

サードエイジャーの体力

山口 泰雄 (発達科学部教授 - 余暇・スポーツ社会学)

世界のアクティブシニア

岡田 修一 (発達科学部教授 - 身体機能加齢論)

転ばぬ先の杖 - 転倒の科学

藤田 大輔 (発達科学部助教授 - 健康福祉教育論)

サードエイジとヘルス・プロモーション

松岡 広路 (発達科学部助教授 - 社会教育・教育老年学)

サードエイジと学び

長ヶ原 誠 (発達科学部助教授 - スポーツ老年学)

サードエイジとスポーツ

17時00分 閉会